

歯科矯正学分野

論文

A 欧文

A-a

1. Moriuchi E, Hamanaka R, Koga Y, Fujishita A, Yoshimi T, Yasuda G, Kohara H, Yoshida N: Development and evaluation of a jaw-tracking system for mice: reconstruction of three-dimensional movement trajectories on an arbitrary point on the mandible. Biomed Eng Online. 18(1):59. doi: 10.1186/s12938-019-0672-z. 2019. (IF:2.013)
2. Narahara S, Sakai E, Kadowaki T, Yamaguchi Y, Narahara H, Okamoto K, Asahina I, and Tsukuba T: KBTBD11, a novel BTB-Kelch protein, is a negative regulator of osteoclastogenesis through controlling Cullin3-mediated ubiquitination of NFATc1. Scientific Reports. 5:9(1):3523, 2019. (IF 4.011)
3. Morita Y, Koga Y, Nguyen TA, Yoshida N, Biomechanical considerations for uprighting impacted mandibular molars, Korean J Orthod (in press) (IF1.476)
4. Rokutanda S, Yamada SI, Yanamoto S, Sakamoto H, Morita Y, Rokutanda H, Kohara H, Yoshimatsu M, Yoshimi T, Nakamura T, Ino-Kondo A, Moriuchi E, Umeda M. Effects of the changes in the condylar long axis angle and condylar position on temporomandibular symptoms after intraoral vertical ramus osteotomy: a preliminary study. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 128(6) 597-605 (IF:1.69)
5. Hotokezaka Y, Hotokezaka H, Katayama I, Fujita S, Sasaki M, Eida S, Uetani M. A case of tophaceous pseudogout of the temporomandibular joint extending into the cranium. Oral Radiol. doi: 10.1007/s11282-019-00410-4. 2019. (IF 0.681)
6. Miura K, Yamaoka S, Arizono K, Ohba S, Koga T, Kawasaki T, Yoshida N, Asahina I: Long-term skeletal stability in the treatment of mandibular prognathism with a physiological positioning strategy. Br J Oral Maxillofac Surg. 57(6): 529-535. doi: 10.1016/j.bjoms, 2019. (IF: 1.164)

B 邦文

B-a

1. 丸山陽市、山下利桂、吉松昌子：Deep Learning による歯式情報認識に関する判別根拠の可視化，医療情報学 39(Suppl.)：781-785，2019

B-c

1. 吉田教明：矯正用材料の特性。（飯田順一郎，葛西一貴，後藤滋巳，末石研二，榎 宏太郎，山城 隆(編)：歯科矯正学 第6版，医歯薬出版，東京，pp. 208-214, 2019.
2. 吉田教明：付録 矯正用材料，矯正用器械，器具。（飯田順一郎，葛西一貴，後藤滋巳，末石研二，榎 宏太郎，山城 隆(編)：歯科矯正学 第6版，医歯薬出版，東京，pp. 384-391, 2019.

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
10	6	1	1	1	11

社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
吉田教明・教授	九州矯正歯科学会(会長)	九州矯正歯科学会
吉田教明・教授	日本顎口腔機能学会(理事)	日本顎口腔機能学会
吉田教明・教授	日本矯正歯科学会(代議員)	日本矯正歯科学会
吉田教明・教授	日本矯正歯科学会(学術委員)	日本矯正歯科学会
吉田教明・教授	日本矯正歯科学会(国際渉外委員)	日本矯正歯科学会
吉田教明・教授	日本顎変形症学会(評議員)	日本顎変形症学会
吉田教明・教授	第9回世界矯正歯科学会大会事業推進WG委員	世界矯正歯科学会
佛坂齊社	日本矯正歯科学会(倫理・裁定委員会委員)	日本矯正歯科学会

・准教授		
佛坂斉社 ・准教授	九州矯正歯科学会 (評議員)	九州矯正歯科学会
古賀義之・講師	日本矯正歯科学会 (代議員)	日本矯正歯科学会
古賀義之・講師	九州矯正歯科学会 (評議員)	九州矯正歯科学会
富永淳也・助教	学校歯科医	長崎大学教育学部附属小・中・特別支援学校
富永淳也・助教	九州矯正歯科学会 (IT 委員会委員)	九州矯正歯科学会
富永淳也・助教	九州矯正歯科学会 (編集委員)	九州矯正歯科学会
森田幸子・助教	学校歯科医	長崎大学教育学部附属小・中・特別支援学校
藤下あゆみ ・助教	学校歯科医	長崎大学教育学部附属小・中・特別支援学校

競争的資金獲得状況(共同研究を含む)

氏名・職	資金提供元	代表・分担	研究題目
吉田教明・教授	日本学術振興会	代表	挑戦的萌芽研究 6自由度顎運動と生体情報の同時計測による咀嚼・嚥下制御メカニズム解明への新展開
佛坂斉社 ・准教授	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 歯根吸収発症における細胞内小器官分解機構を有する 12/15-L O X の関与
古賀義之・講師	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 人工知能(AI)を利用した顎顔面の成長予測技術の開発
丸山陽市・講師	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 個人識別に最適化する歯式マトリックスと深層学習による個人識別に関する基礎的研究
富永淳也・助教	日本学術振興会	代表	若手研究(B) 歯槽骨リモデリング速度の定量化による長期的な歯の移動予測・可視化システムの開発
森田幸子 ・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究(C) 分子イメージングを用いて力と骨代謝の関係を究明し矯正力を最適化する
藤下あゆみ ・助教	日本学術振興会	代表	若手研究 (B) 顎口腔機能低下モデルを用いた若年層からの包括的オーラルフレイル予防戦略の検討
吉見知子 ・医員	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 パーキンソン病モデルマウスを用いた摂食・嚥下障害発症のメカニズム解明と治療戦略
藤村裕治・客員 研究員	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 低用量ピル(エストロゲンおよびプロゲステロン)は矯正力による歯の移動を妨げるか?
小原悠・客員 研究員	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 神経ペプチド・オキシトシンが破骨細胞および矯正学的歯の移動に与える影響の解明

有田浩太郎・客員研究員	日本学術振興会	代表	若手研究 (B) 硝子様変性と再石灰化を標的にした GSK-3β 阻害による歯根吸収抑制機構の解明
橋本恵・客員研究員	日本学術振興会	代表	基盤研究 (C) 硝子様変性と破歯細胞活性を標的にした HIF-1α 阻害による歯根吸収抑制機構の解明
檜原春菜・客員研究員	日本学術振興会	代表	若手研究 (B) 破骨細胞における細胞骨格を制御する新規因子の同定とその分子基盤の解明

特許

氏名・職	特許権名称	出願年月日	取得年月日	番号
丸山陽市・講師	Orthodontic Practice Appliance	2017年3月31日	2019年7月16日	米国特許： US 10354557 B2

その他

○特筆すべき事項

- ① 新技術の創出への取り組みとして、咀嚼運動解析システムの開発を行っている
- ② 歯並び教室を開催し、希望者を対象に矯正歯科に関する講習・相談を行い、それに関するパンフレットや冊子等を作成・配布して、歯の健康に関する啓発・啓蒙を行っている
- ③ 医科・歯科連携型電子カルテの開発（医科・歯科連携型電子カルテは長崎大学、大阪大学、徳島大学、鹿児島大学、大阪歯科大学、福岡歯科大学、松本歯科大学、日本歯科大学新潟病院を含む90施設以上の病院に導入されている）